

平成 23 年度事業計画書

学校法人千葉工業大学

■ 高等教育を取り巻く環境

国際社会のグローバル化はさらに加速度を増し、一部地域の変化は一夜にして世界を変えるほどの影響力を示している。チュニジアを震源にしたイスラム諸国の民主化運動は国際経済にも重大な影響を及ぼし、原油価格の高騰はリーマンショックによる不況から脱出しつつある各国の経済に多大な影響を与えつつある。

また、企業の国際化は採用動向にも影響を与え、国際企業の積極的な外国人留学生の採用動向は、戦後最悪といわれる就職氷河期に直面している日本人学生にも重大な影響を及ぼしている。物的資源の乏しい日本にとって、人的資源である次世代を担う人材の育成が叫ばれて久しいが、国際社会の急激な変化は国内における人材育成に時間的猶予を与えず、若者の就労環境は厳しさを増してきている。

これら国際情勢の変化や国内経済の動向を踏まえ、中央教育審議会大学分科会では、「大学教育の質保証」、「公的な質保証システムの整備とその一環としての教育情報の公表の促進等」、「幅広い年齢層の者が学ぶ大学教育の推進」、「大学教育のグローバル展開の促進」、「大学院教育の飛躍的な充実」、「質保証を支えるための国公立大学の健全な発展」について議論が進められている。大学の教育情報の公開は学校教育法が改正され、本年4月1日より公開が義務化された。また、認証評価制度は今年度より第二期に入り、より高いレベルでの大学の質保証が問われることとなる。

■ 本学の現状

平成20年度の(財)日本高等教育評価機構による認証評価受審後3カ年が経過し、改善向上方策のその後の進捗状況を総点検する時期を迎えている。

教育研究体制については、平成21年度開設した社会システム科学部「金融・経営リスク科学科」及び大学院工学研究科「未来ロボティクス専攻(修士課程)」が本学の教育研究体制の更なる充実に寄与し始めている。FD活動は、昨年度より「学部教育シンポジウム」を全学部で実施する体制に改め、優秀者には研究資金を援助するなど、制度の質的向上を進めている。また、FD活動をさらに充実させるため、FDに関する委員会を一つにまとめ、活動の円滑化を図った。JABEE(日本技術者教育認定機構)への取り組みは、昨年度の工学部電気電子情報工学科に続いて、情報科学部情報ネットワーク学科が受審申請を行い、今年度に認定を受ける予定である。昨年度よりスタートした学生の自主的な創作活動を支援する「CITものづくり」は、学生の「ものづくり」への関心を高めるとともに、グループワークによる相乗効果をもたらしている。

社会貢献では、産官学融合センターを中心に多彩な活動を行っており、産官学連携フォーラムの開催や地元自治体、他大学との協同による「知的財産セミナー」の開催など、地域活動を促進している。

本学の一般入試の志願者動向は、新校舎の完成、入試制度の改革、教育研究体制の充実、積極的な広報展開等によって志願者が昨年に続き大幅に増加した。しかし、この結果に満足することなく、時代に即した教育課程改革を継続的に実施しつつ、修学支援体制の更なる充実やキャリア教育の拡充など、総合的な学生支援体制の整備を今後も進めていく。

■ 平成 23 年度事業計画

1. 教育研究

平成 23 年度より、出口の質の保証を更に行うための一環として、次の 2 項目からなる初年次教育を実施する。①大学での修学に適応するのに必要な技術や心構えを養う授業②工科系大学生としての学力を確保するための高校における数学・物理学・化学の補完授業。これらを実施するとともに、1・2年生が通う芝園キャンパスの学習支援センターも充実（数学・英語・物理学・化学を担当する各教科 2 名の教員が、常に支援する体制）させることにより、高校教育から大学教育への円滑な移行を進める。

本学の教育力の向上を図るために、FD の一環として平成 21 年度から学部教育シンポジウムを通じた「教育業績表彰」制度を運用し、この制度の更なる充実を図り、教育手法に関する情報を共有するとともに、講義や演習等における指導にフィードバックしていくことを目指す。また、学生を主体としたものづくり活動に対して人的・経済的支援を行う「CIT ものづくり」を実施し、学生に“ものづくり”に対する興味を抱かせ実行力を養わすこと、メンター制を中心とした修学支援制度の活用により、多様化した学生の対応に努める。

JABEE（日本技術者教育認定機構）認定コースの設置申請については、電気電子情報工学科が平成 22 年 5 月に認定を受け、情報ネットワーク学科が既に実地審査を終了し、平成 23 年 5 月に認定を受ける予定であり、更に他の学科においても順次申請準備を進めている。加えてキャリア支援の充実を図るなど、これらの事業を通じて教育の質の向上を図り、出口保証をしっかりと行う。

研究面においては、若手教員に対する研究支援強化等により、研究活動の活性化を進めるとともに、産官学融合センター機能の一層の充実を図ることで大学の第三の使命である「社会貢献」を推進し、研究シーズの積極的な公開を行う。

[具体的項目]

- (1) 学生生活の満足度向上へ向けた継続的対応
- (2) 学生支援の充実強化（学生相談，課外活動，奨学金等）
- (3) 学生共済会の充実
- (4) 入学前教育の充実
- (5) 教養基礎教育カリキュラムの充実
- (6) 初年次教育の充実
- (7) 教員と一体化した就職支援の推進
（企業との交流を深める・保護者向けキャリアフォーラムの実施）
- (8) キャリア支援の強化及びキャリア教育の促進
（キャリア形成支援プログラムの展開，資格取得講座の開講等）
- (9) インターンシップの促進
- (10) 学生支援推進プログラム「学生の孤立化を解消する就職支援プログラム」（文部科学省補助事業）の実施
- (11) 新入生に対する少人数制による総合的な支援
- (12) 習熟度別教育の充実

- (13) 「CITものづくり」を通じ、学生の工学に対するモチベーションを高めるためのものづくり活動支援
- (14) J A B E E（日本技術者教育認定機構）認定申請に向けた取組
- (15) 教育業績表彰制度等を通じたFD活動の継続
- (16) 自己点検・評価の継続的实施
- (17) 競争的研究資金等公的研究費獲得支援
- (18) 経常費補助金特別補助事業の強化
- (19) 研究状況・成果の積極的広報展開
- (20) 大学の特色を活かした公開講座の推進
- (21) 千葉エリア産学官連携オープンフォーラムの実施
- (22) 教育・研究業績データベースを駆使した情報の発信
- (23) デジタル情報の普及と学習機会の多様化に対応した機能の充実
- (24) 地域社会と連携を図るための図書館の開放
- (25) 海外協定大学との連携強化
- (26) 留学生の派遣及び受入れ体制の充実
- (27) 教育・研究のためのネットワーク機能の充実
- (28) コンピュータ演習室の機器更新
- (29) 学生寮の支援活動強化

2. 管理運営

平成18年度からスタートした教育研究環境の整備は、平成20年3月に芝園校舎12号館、平成20年9月に津田沼校舎新1号棟、平成22年3月に津田沼校舎新学生ホール棟が完成し、本年3月に津田沼校舎に新2号棟が竣工した事により、5カ年の歳月を掛けたキャンパス再開発計画のすべてが完了した。習志野市のランドマーク的存在となったツインタワーからは、研究活動の成果や先端技術を広く社会に向けて発信する機能がスタートした。

今年度は、次期キャンパス再開発として、4号館等の改修工事の他、本館・1号館と金属・化学実験室の解体工事に着手し、インフラ整備並びに跡地整備の計画を行う。更には、その後の計画として、部室棟・電機室解体後のインフラ・跡地整備計画など学内の環境整備を図り、学生生活の充実と教育・研究活動の向上を目指す。

また、芝園校地においては、平成23年3月の東北地方太平洋沖地震でキャンパス周辺が液状化の被害を受けた為、現状復旧工事に最大限注力する。

〔具体的項目〕

I. 施設・設備関係

- (1) 津田沼校地 4号館等 改修工事
- (2) 津田沼校地 本館, 1号館, 金属・化学実験室 解体工事・跡地整備
- (3) 芝園校地・茜浜運動施設 震災復旧工事（液状化対応）
- (4) 芝園校地 6・8号館 空調機交換・改修工事

II. 組織等

- (1) 継続した学生支援業務, 教育研究サポート業務の充実のための事務対応
- (2) 創立 70 周年事業の準備
- (3) 安定的な経営基盤の確立を目指した財務運営
- (4) 自己点検・評価の実施
- (5) SDを目指した各種研修の実施

以上